

***** 目 次 *****

- P1 今号の TOPICS 大釈 金呉
P2 仲間たちの近況報告 (1)
1 班 玉尾 洋一
2 班 藤原 敦子
P3 仲間たちの近況報告 (2)
3 班 齊藤 ちづみ
4 班 藤原 泰子
P4 私の玉手箱 堰口 義明
P5 専任幹事ご挨拶
村上 好子 大野 眞理生
P6 班長の思い 近藤 フミ子
P7 写真コーナー 原 司
P8 樹木ウォッチング 遊上 眞一
P9 絵画コーナー
藤川 宗昭 中山 勝一
P10 短歌・俳句・川柳コーナー
山上 恵子 宮澤 富美雄
P11 新人紹介コーナー
今堀 昭恵 倉本 敏明
高城 光一 日野 裕一

◇自然と文化だより◇

記念すべき 60 号を区切りに、本号から編集を担当することになりました。原稿がたいへんなので発行数を減らしてはという意見もありますが、2009 年から年 4 回 15 年間分すらっと並んだ HP の一覧を見ると、積み上げられた歴史の重さを感じます。大先輩から新人まで、仲間がどんな関心を持ち日々何を感じてどう生きてきたかを垣間見る小さな窓です。どうすれば負担感を減らしながらよりよいものにしていけるか、みなさんと一緒に考え工夫して、なんとか続けていきたいと今は思っています。

ご協力よろしくお願ひいたします。

tsukashara

CROWN
SHINESSES



葉と葉の間に見える空
自然の静かな競い合い
高く伸びる木々は調和を知り
文化の深さを伝え合う
静けさの中で語られる物語
それは永遠の調和の証

元写真 2023.9.23 東山自然観察会観察の眼 詩 ChatGPT



新たな時代を迎える自然と文化科の課題と魅力：代表からのメッセージ

代表 大沢 金呉

2019 年度に代表に就任して 6 年目になりました。まず就任以来の過去 5 年間で少し振り返ってみたいと思います。

就任 1 年目の 2020 年初頭、新型コロナウイルスの感染拡大が世界を揺るがしました。経済や社会、そして我々の行動様式を変えていきました。我々シニアの活動にとっても未知の挑戦でした。マスクの着用、緊急事態宣言で飲食店や店舗の営業を規制し、外食や旅行の需要が激減しました。そして本格的な経済の回復は、ワクチンの普及で感染が減り始め、経済成長率がプラスに転じる 2021 年までかかりました。在宅勤務やオンライン会議も前例のない規模で広がりました。科の運営委員会も Zoom 会議で行われました。やっとコロナ感染がヤマを越した 2022 年頃から対面形式の会議が復活しました。やはり率直な意見交換は語気や顔の表情、雑談を含めて気脈を通じ合う対面でないと難しいということを痛感しました。コロナ禍は世界の経済の構図も変えました。中国の「ゼロコロナ」規制によって原料や部品の調達先の多様化や内製化への移行が必須になりました。この傾向は今も加速しています。

我々の活動も 2023 年度からやっと平常に戻りましたが、コロナ禍では室内活動のみならず野外活動も自主規制の対象になり、活動中止が相次ぎました。コロナフレイルという言葉も流行しました。2019 年度～2022 年度の間の活動日数を振り返ってみますと、以下の通りです。活動日数は激減しました。

2019 年度（41 日/計画 49 日：稼働率 84%）
2020 年度（23 日/計画 50 日：稼働率 46%）
2021 年度（29 日/計画 50 日：稼働率 58%）
2022 年度（41 日/計画 49 日：稼働率 84%）

コロナ初年度の 2019 年度は、2020 年の 2 月、3 月の活動がすべて中止に追い込まれました。私の就任 5 年間のうち実に 4 年間は、活動の仕方の模索などコロナとの戦いでした。

さて、話題を転じて今、自然と文化科が抱えている課題は次の 3 点に集約されます。

- ① 入科希望者の減少
- ② 科員の高齢化と体力の低下
- ③ 科員数が多いにも拘らず役員のなり手不足

入科希望者の減少については、シニア自然大学の研究部門全体の問題ですが、自然と文化科では、その対策として、i) 入科条件を緩和し、高等科（専科）修了を本科修了へと変更して門戸を広げました。本科講座生の確保も根本的な課題です。ii) 我々の活動内容を本科講座生に実体験してもらうことが一番であると判断し、実習認定行事を従来の箕面公開観察会に加えて自然観察会のすべてと草本観察会、歴史文化散策各 2 回に拡大しました。iii) さらに入科案内チラシを新たに作成して積極的に入科勧誘活動を行うよう工夫しました。

また、科員の高齢化と体力低下に対しては、小回りの利く小集団活動（班別・委員会別活動）を増やして、体力に配慮した活動の企画などの施策を取っています。また自然観察会においても体力に配慮したコースを別途設定して、出来るだけ多くの科員の参加が出来るようにしました。

最後の役員のなり手不足に対しては、今後も大幅な科員の増加が見込まれないことから、若い入科年次順次先送りの役員人事には限界があり、今後は、過去の役員経験者の再登壇もお願いせざるを得ないと考えています。

最後に自然と文化科の魅力について考えてみました。豊富な経験や能力を持つ科員による充実した活動内容はもちろんのこと、人と人との交流にあると考えています。科員のほとんどは、例外なく人生の最晩年に差し掛かっています。科員同士がお互いを支え合い、経験を共有し合うことを通じた「居場所」としての自然と文化科が、最も魅力的な要素であると考えています。他人との「非接触」を推奨するコロナ禍を経たからこそ、余計に感じられる魅力です。

これからの科の運営は、難しくなる一方ですが、皆で知恵を出し合い、基本理念に沿った自然と文化科の活動の継続と活性化のために精一杯努力する所存です。みなさまのご協力をお願い致します。

軍艦島

1 班 玉尾 洋一

2月長崎旅行をした。この時期「長崎ランタンフェスティバル」が開催されている。長崎新地中華街の人たちが、街の振興のために「春節祭」を、平成6年から規模を拡大したところ、長崎の冬を彩る一大風物詩となったと、長崎市公式観光サイトに載っている。町中沢山の中国提灯が吊ってあり、大小のオブジェクトが至る所に飾ってあった。

これが旅行のメインのつもりであったが、ついで行った軍艦島がすごかった。無知な小生は戦時中、基地でもあったのかと思っていたが、事実を知ってすごく興味が湧いた。明治日本の産業革命の原動力となった石炭が採掘された島（端島）

世界文化遺産 軍艦島



で、岸壁が島全体を囲み、高層ビルが立ち並んだ外観が軍艦「土佐」に似

ていることから軍艦島と呼ばれるようになった。ピーク時は5300人が住み、学校、病院、映画館、パチンコ、娯楽ホールなど生活のすべてを賄うことができたそうだ。長崎港からクルーズ船で軍艦島に向かった。島に近づくとゆっくりと1周して、写真タイムだ。乗客は2階のデッキに出て写真を撮ることが出来る。風が強いと上陸が無理だと聞いていたが、運よく上陸することが出来た。主要エネルギーが石炭から石油に移行したことにより、

1974年閉山となった。無機質なビルの残骸が並んでいた。危ないのでほんの一部しか歩けないが、その間ガイドさんの説明があった。



80年以上稼働していて、ここで生まれた人は大人になり、ここで働いたのだと推察される。閉山となり島を離れることになった人々は、どういう思いであったのだろうか！？3時間ほどの旅だった。

工作同好会はつづくよ！

2 班 藤原 敦子

新体制での2年目！

工作同好会の皆さんで協力し合って講師の選定、会計、会場予約等をそれぞれの担当に分かれて運営しています。



講師を引き受けて頂く先輩達の作品は、身近にある木の実、小枝等の自然物やいろんな素材を使って創意工夫されているのには、いつも感心させられます。



日頃から材料集めを心がけ、丁寧に保管されているのでしょうか。友達に出来上がった作品を写真にアップしてLINEすると、喜んで感想を送ってくれます。

動くおもちゃシリーズ、折り紙、水引工作、クラフトテープ等テーマも豊富で、各講師の入念な準備と優しい指導は頭が下がります。



今年度は少し趣向を凝らして、理科実験のイベントをN氏の推薦で（認定NPO法人）コアネット不思議な理科遊び教室のリーダー小林将浩さんの講師で「作って、遊ん



で、不思議だな！」なぜかな、そうなんかを発見しようをテーマに工作同好会で新しい催しを企画します。そして気軽に参加して頂ける、ミニ工作同好会の催しもしています。これからも工作

同好会に、ご支援をよろしくお願いいたします。

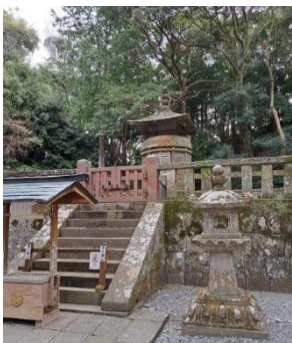
青春 18 きっぷ

3 班 齊藤 ちづみ

無類の旅好きですが、この切符利用の旅を初めて経験しました。今迄考えた事がなかったので相棒任せで結構面白い旅でした。静岡を拠点に富士山本宮浅間大社と久能山東照宮を目的に、日帰りは無理なので 2 枚の切符を使用しました。ダイヤと睨めっこで途中下車を有効活用して名物に舌鼓しながら余裕の旅のはずが、名古屋での途中下車が予定をくるわせました。暖かくなりかけた日々が急に寒くなり強風が吹き、掛川駅手前で電車が止まり立往生、ダイヤの乱れが間引き運転につながりその挙句予定より 1 時間も遅く静岡に到着。自然には敵いません。おかげで車窓より見た富士

山は浅間大社付近で夕日の富士山を見る事になり、結果は良かったかもしれません。富士山は昨年よりご縁があって飛行機内から堪能したり、思いもかけず目の前に現れたり、いつみても感動します。浅間大社境内には湧水がこんこんと出る国指定特別記念物「湧玉池」があり、昔から富士道者が身を清めて登山したそうです。10 数年前に行った沼津の柿田川湧水群や山梨県の忍野八海とは違った霊験あらたかな湧水です。

翌日は日本平へ約 50 分かけてバスでのドライブを楽しみ、駿河湾を眼下にロープウェイで久能山東照宮に参拝。日光東照宮に行った時、家康当初の安置所が気になっての計画です。権現造りで総漆塗、極彩色の社殿は江戸時代初期の代表的建



造物で東照宮の原型とされ国宝指定です。祭神は徳川家康ですが豊臣秀吉、織田信長の相殿があるのが特徴です。最上にある家康公の神廟宝塔を参拝し、最後に資料館で時間を取り帰路に付きました。JR 西日本と JR 東海にかけての旅で車両や設備の違いを感じたり、地理と駅名を再認識したりこの旅ならではの収穫がありました。今頃、青春 18 きっぷに目覚め次回もあれこれ思いを巡らせています。



旧 2 班お別れ旅行 「高尾山へ」

4 班 藤原 泰子

昨年のある観察会の帰り、5 人位で立ち寄った店で高尾山のタカオスミレを見に行きたいねという話が出て、2 班の人にも声をかけてみよう、すぐその場で旅行が決まった。3 人の方が中心になり、綿密な盛り沢山の計画を立てて下さり総勢 13 名に詳しい資料を次々に送って下さいました。

3 月 24 日出発となりましたが、天気予報は連日雨模様。でも当日は曇りで新幹線から望む富士山は素晴らしく皆興奮気味でした。午後からは小石川植物園を巡りました。幸い雨にならず、精子発見のソテツ・イチョウ、TV “道草さんぽ” で紹介されていたオオシマコバンノキなど見ながら一周して宿へ。この日の夕食会は楽しく大盛り上がり！



2 日目は小雨の中、高尾山へ。タカオスミレは葉しか見られなかったが、エイザンスミレ、ヒナスミレ、マルバスミレ、ユリワサビ、ヨゴレネコノメ、ミミガタテンナンショウ、ヤマルリソウなどいろいろ見られて楽しく観察出来ました。



（ヒナスミレ）（ヨゴレネコノメ）（ユリワサビ）特にヒナスミレは通りがかりの方に教えて頂き特徴をしっかりと覚えて何度も見たので印象に残った。

1 号路、5 号路、3 号路を歩きましたが皆疲れてきて、帰りは歩く予定がケーブルで降りて早目の夕食をとり、その後一部屋に集まり、美味しいワインを飲みながらお喋りしました。みんな疲れた～という中、ただ一人何ともないという G さん。月に数回山を歩いて自分に適切な負荷をかける事が元気の秘訣というお話でした。旅行で混浴に入った…などの話が出て又大盛り上がり！

3 日目は朝から大雨で、予定を変更して上野の国立科学博物館へ行く事にした。館内は広く一通り回ったが、楽しかったのもう一度見に来てみたいと思い、昼には解散して其々帰りました。

一人体調不良で行けなくて残念でしたが、同じ思いを持った人々との旅行は、行く前からワクワクドキドキでとても楽しいものでした。皆様本当に大変お世話になりました。

旧 2 班お別れ旅行 小石川植物園、高尾山、国立科学博物館

1 班 堰口 義明

私は高等科は 2 年行きましたが、コロナのおかげで修学旅行は 2 年ともありませんでした。しかし卒業してから有志で高知の牧野植物園に行きました。今回は昨年の暮れぐらいに東京の高尾山に行きませんか、お誘いがありました。この様なことがないとめったに行ける機会はないので行くことにしました。次に驚いたことは運賃についてです。片道の営業キロが 601 キロ以上になる場合往復割引で行き帰り共に 1 割引きになるという事です。又ジパング倶楽部を使うと最初は 2 割引きになりました。但し「のぞみ」には乗れません。自由席でも始発であれば、十分座ることができました。新幹線の乗車券を買うのも今まで自分では買ったことがなかったので、みどりの窓口がずいぶん混んでいるので驚いた。出発の日は発車時刻の 40 分前ぐらいに行きました。日曜日のせいか割とすいていた。富士山を眺めながら、話などしていると 11 時過ぎに東京駅に着きました。それから電車乗り継ぎ「小石川植物園」に行きました。ここでは「道草散歩」に出てくる精子発見のソテツやイチョウウを見ることができました。



また、温室にはオオシマコバンノキがあった。この植物の花粉を運ぶ唯一の昆虫である蛾を奄美大島から導入し、植物との共生に成功したとあった。また、シダ園にはアオネカズラやヌカイトチシダモドキ等珍しい植物があった。桜はまだ季節的に早く、カンヒサクラ、オオシマサクラ、オカメザクラしか咲いていなかった。植物園には 3 時間程度見学して、立川のホテルに向かった。この日の夕食担当は N さん T さんでイタリアンレストランのコースで飲み放題でした。またワインのお変わりが大変早かったです。行くときは少し雨が降ってきていましたが、明日は曇りぐらいかなと楽観的に考えていました。翌朝、朝食場が混むというので、早くに行きました。連泊なので小さいザックをもって出かけると、小雨模様で傘をさして出かけました。大降りではないのでこのままもってこれれば良いのにといいながら、コンビニに寄り、昼ご飯



を買い立川の駅から中央線で高尾まで行き、京王線に乗り換え高尾口行きました。立川から高尾までの乗車券は昨日の乗車券が使えた。高尾口からタカオ 599 ミュウジウムに向かいそこで高尾山でよく見かけるスミレ 8 種等



高尾山のことを学んだ。1 号路のほうに歩いていくと、東海自然歩道案内図があり、東海自然歩道は高尾山から美濃を通り大阪の箕面を結ぶ総延長 1,697.2km の長距離自然遊歩道でした。1 号路でユリワサビ、マルバスミレ、カントウカンアオイを見ながらゆっくり歩きケーブルカー駅、タコ杉、男坂を通り高尾山薬王院に着いて集合写真を撮り、先に帰る 2 人と別れ高尾山山頂を目指しました。雨はまだまだ降ったり止んだりでした。頂上で弁当を食べて、5 号路を回って 3 号路に入り 2 号路からケーブルカー乗り場まで行くが、結構分岐がややこしく M さんの



道案内ですいぶん助かった。この間エイザンスミレやヒナスミレなどを見た。雨のせいで足元も悪く、疲れたのでケーブルで降りることにした。高尾山口駅まで来たら、みんなの足元はドロドロだったので何処かで洗いたいと思っていたら駅前に靴を洗う場所があり、ブラシも置いてあった。駅も汚れるのでさすがです。この日は森林総合研究所多摩森林学園の見学の予定だったが、サクラ保存林公開中止の事もあって取り止めました。立川駅まで帰り、駅中で夕食を取る事にしました。調べてくれていた寿司屋に行って夕食を取りました。ホテルに帰り、各自休憩後 K さんの息子さんの差し入れのワインをみんなで飲み、明日の予定を話し合いました。予定では国立極地研究所等の見学予定でしたが、雨も本降りになってきて荷物の持ち運びもたいへんなので、上野駅に近い国立科学博物館のみに変更しました。翌日は本格的に雨が降っていました。火曜日なのに大勢の人がいて疲れたので、T さんと早めの新幹線で帰りました。このような楽しい旅は久しぶりで、良い諸先輩方に恵まれたこの旅は私の宝物です。玉手箱に入れておきます。



テーマは、「みんなが参加できる楽しい企画」 企画委員会 村上 好子

先日、佐渡を旅した。
心に残ったことベスト3.

一つ目はシラネアオイ、カタクリ、オオイワカガミ、サンカヨウ…数え切れないほどの清楚で可愛い花たちに出会ったこと。



二つ目は世界遺産候補になった金山見学。400年も前から辺境の地で金が掘り出されており、坑道を出た後の割戸を見て人力のすごさを感じた。三つ目は、古布を裂き新たな生地へと生まれ変わらせる「裂き織」に触れることができたこと。裂き織は、まさに SDGs である。



どこに

行ってもその土地その土地の歴史があり人々の知恵や工夫があり、旅をするたびに新鮮で心躍ります。

企画委員会に所属してはや6年が過ぎた。今まで知らなかった世界をたくさん学ばせてもらった。

企画委員会には、歴史について造詣の深い先輩方がたくさんおられるので、教えていただきながら専任幹事の仕事をこなしていきたいと思っています。

昨年度は、「委員会としてのレベルアップ！」をテーマにして「琵琶湖疎水パートⅠ」の案内に取り組みしました。皆さんの「聞く」という温かい姿勢があっただけではあるが、それぞれに無事充実感を持って案内を終えることができました。

今年度も「琵琶湖疎水Ⅱ」「秋の法隆寺界隈」の自主ガイドを2つ企画しています。

それぞれガイドのレベルアップを図るべく鋭意取り組み中です。いざ、ガイドするとなるといろいろ調べるので、大変だけど面白くなってきます。どうか今年度も温かく見守ってくださるようお願いいたします。

そして今年度はテーマをレベルアップ！「みんなが参加できる楽しい企画」を目指して企画を提案していきたいと知恵をしぼっているのです。楽しみにしてください。

少し熱く“面白くやる”

観察委員会 大野 真理生

この度、観察委員会専任幹事に就任しました大野真理生です。コロナ禍中で僅か5カ月間の短い期間の講座で本科花組を修了しました。そのような状況下で受けた講座・実習の中で、自然と文化科から来られた講師の方々の自然への思い量りの影響を大きく受け当然のごとく高等科そして自然と文化科へ進路をとりました。今でもそうなのですが、自然や植物観察の作法をほとんど知らず後ろからついていく私に色々と丁寧に教えて頂いた諸先輩方には感謝しています。

自然と文化科の「自然」に関する学習、とりわけ植物観察に関する学習を担うことが観察委員会であると思います。かつてのような人的バブルはもはやなく、現在22名という人数で自然と文化科の自然学習を今までと同じように担っていくには、何某かのイノベーションを求めざるを得ないのではないだろうかと思われます。例えば、観察委員会には3つのチームがあります。委員それぞれがいずれかのチームを選択して所属しています。それぞれのチームの適正な人数配置を考えることで、よりスムーズなチーム活動遂行ができるかもしれません。

6月10日に箕面公開観察会が行われました。参加した実習生は44名、リーダーも含めると優に50名を超えました。近年にない盛況で、リーダーとして参加された方々に、また自然と文化科にとっても久々の科員増というインセンティブになりうると信じています。ポジティブに“やって面白い”感触があったと思います。

限られた人数でも“やって面白い”ことをやる。可能な限り全てにおいて共に行動することが大事です。「協働」することでシニアコミュニティとして「共同」から「協同」への進化というイノベーションを共感・共有し楽しみ面白いものにする効果が生まれてきます。ささやかな積み重ねを一緒にやるのが今できるイノベーションだと考えます。

何も難しいこと、しんどいことをやろうというのではなく、共にワイワイやる中でのオープン性と多様性がキーワードになるのではないのでしょうか。観察委員は基より科員皆さまのご協力が必須条件であることは言うまでもありません。

どうかよろしくお願い致します。

班長の思い

班長の思い つぶやき 愚痴

2 班 近藤 フミ子

自然と文化科に入って先ず驚いたことはテンポの早さでした。タイムスケジュールに沿って皆が急いで動いているのです。(ビックリ)

入ってばかりで副班長。でもこれは他の副班長達が補ってくれていました。わからないまま出欠表、活動報告も知らないまま提出されていて、1 年が過ぎていったのです。(笑)

突然の班長の話。これもテンポの早い仕事から次へ、全日の班別活動、半日の班別活動、いろいろ考えていると自分の他の活動に支障がでてきます。箕面観察会参加も金曜日以外。(困る)本来だと楽しく参加していたことがまた班別活動につながる歴史探索に、なり楽しめません。(T_T)

自然と文化科のことを知らなすぎることからミスが出てきました。(自分の頭の悪さ)

1 年に一度メグスリノキを観に行く「学習の森」を、班別活動で行きました。20 名も参加してください。(ホットしています。)

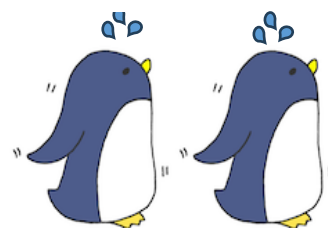
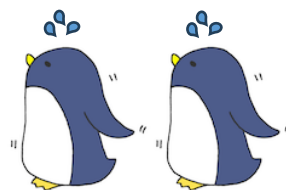
2 班の仲間からも少しずつ助けてくださる方もできてうれしいかぎりです。(仲間づくり)



今の気持ちは、来年は自然と文化科をやめて、班別活動などを考えることなく植物観察をたのしめる日々に戻りたい。仲間と別れるのはつらいけど。(2024、5 月現在)

これ以上班長の仕事を増やさないでほしい！この原稿をかくことも増えたひとつ。(怒)

愚痴ってしまいました。(・_・)



(編集部から)

今年度から班長も運営委員会に関わることになったので、思いのたけをはきだしていただこうと、新たにコーナーを設けました。

忙しくなった上にますます仕事を増やしてしまいごめんなさい。

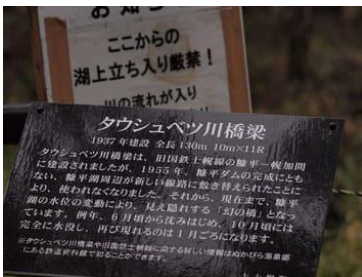
tsukashara

申し訳ない



2023 年 4 月撮影 雨にけぶるタウシュベツ川橋梁

4班 原 司



1955 年糠平ダム湖の底に沈められ水が少なくなると現れるアーチ
その特別ルートに付け替えられた土幌線もその後林業の衰退により
廃線となり終点の幌加駅も今は荒れ果てています
周りはすべて人工林もはや人の手が入ることはなく放置されたま
ま自然更新を待つのみといえます



極相林・根曲がり・鉤目・霧氷・樹冠流・・・
特徴が多い樹木

2班 遊上 眞一

ブナ



クロアチア プリトビツェで見たヨーロッパブナの
極相林。非常に明るい林でした。
ブナは日本でも 冷温帯で極相林になります。



葉の縁は波形。そして平行な側脈は 波の
凹んだ所に向かいます。六甲山で撮影。



5月10日に 芦生の森を歩いていると、ブナの木
の高い所に 何かいっぱいについています。よく見ると花。
なかなか見ることはできないものです。



冷え込んだ朝 氷点下の金剛山山頂付近では
ブナの霧氷が朝日を浴び 白い花が咲いたようです。



斜面に積もった雪が、下にすり落ちてゆく
圧力で曲がるが、それを持ちこたえて直立して
ゆきます。岡山森林公園。



昭和54年に鉤で切れ込みを入れた目印、
37年後も崩れず読めます。白神山地で撮影。



果実と落葉。妙見山は自然が豊かです。



雨が葉から枝、枝から幹へと集まって 川の
ように 流れ落ちる樹冠流。乳頭温泉 黒湯。

尾瀬湿原

1班 藤川 宗昭



「夙川の桜」水彩 F6

2班 中山 勝一



2班 山上 恵子

短歌

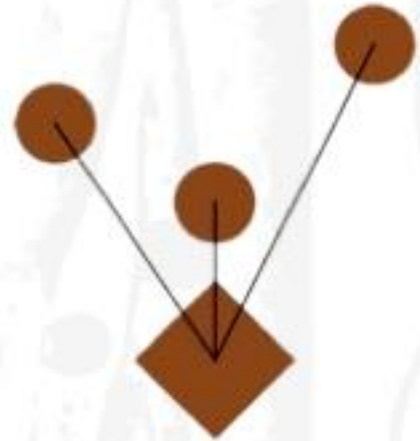
- ・ 世の中は不安な事が多くして夢を託せる若人二人
- ・ 片付けても片付けても状態変わらずじっと部屋みる

俳句

- ・ ポンと音立てて藤の実爆ぜにけり
- ・ 丹精す夫の残せし皐月咲く
- ・ 濃淡の緑新樹のある世界

川柳

- ・ ふり袖が気になり見ているフラダンス
- ・ 誤ってチャイム児が押しバス停車
- ・ 日記帳空白にある葛藤



3班 宮澤 富美雄

川柳

- ・ 遊びまで ムキになるのか シニア層
- ・ 診察券 いろはの順に 整理する
- ・ 散るサクラ 心のように ハラハラと
- ・ 夢を追い 故郷捨てて 五十年
- ・ 二親の 遺品に積もる 綿埃

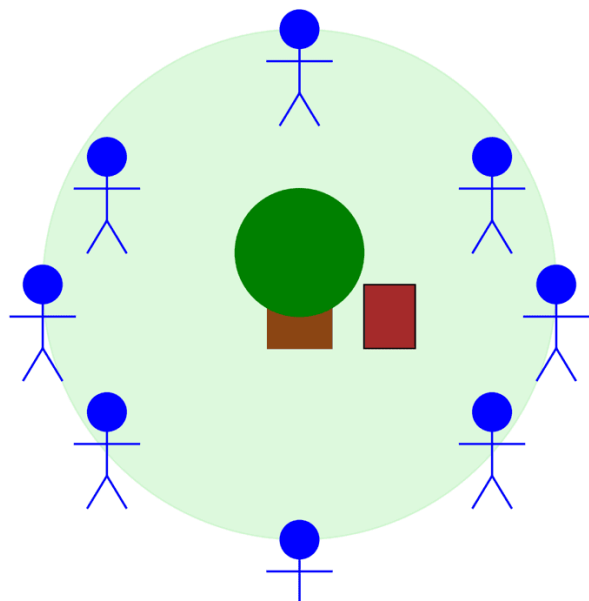


新人紹介コーナー

①：氏名 ②：所属 ③：講座生の期 組
④：住所 ⑤：他の所属 ⑥自己紹介

	① : 今堀 昭恵 ② : 4班副班長 ③ : 30期火曜コース ④ : 交野市 ⑤ : 交野自然の社クラブ この指とまれ 京とおうみ自然クラブ		① : 倉本 敏明 ② : 2班副班長 ③ : 29期 ④ : 神戸市 ⑤ : なし
⑥ 各地の山を散策して楽しんでいます。そこで出会った、咲いてる花や植物が愛おしく、名前が知りたくて入科しました。よろしくお願いします。		⑥ 今まで山は体力だと思っていましたが、山や自然の中にいる幸せを感じ始めています。自然と文化科で色々な事を知り楽しみたいと思っています。よろしくお願いします。	
	① : 高城 光一 ② : 1班副班長 ③ : 18期星組 ④ : 奈良市 ⑤ : 所属無し		① : 日野 裕一 ② : 3班副班長 ③ : 29期火曜コース ④ : 川西市 ⑤ : ネイチャー学志山歩会
⑥ 本科卒業後は6年間「地球環境自然学講座」で多くのことを学びました。 その後環境問題を深堀りしたいと思い「自然と環境科」に入りました。 毛色の変った趣味として長唄三味線をやっています。		⑥ アウトドアで散策することが趣味です。自然と文化の両方を学び続けたいと思い入会しました。	

Circle of Friends: Nature and Culture



おかげさまでなんとか61号を完成することができました。これからもより親しみやすく内実のある機関誌をめざして改善を重ねてまいりたいと思います。みなさまのお声をどうぞお寄せください。

⇒ tsukasha@mac.com

広報委員会